

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.36 2013年 3月

チューブやラインの抜去事例について

POINT 安全使用のために注意するポイント

(事例1) 人工呼吸器装着中の患者さんの体位変換を行った際、気管切開チューブや呼吸回路を保持していなかったために、気管切開チューブが抜けてしまった。

1 体位変換時などの注意点

- 人工呼吸器装着中の体位変換は、気管切開チューブなどを保持して行うこと。



注) 気管へのチューブ再挿入時のリスクについては、「PMDA医療安全情報No.30」及び「PMDA医療安全情報No.35」も合わせてご参照ください。

その他の抜去事例

ベッド等への移動時

ドレーンバッグが
固定されたまま！

手術台などへの
引っかかり！

患者さんを移動させる際は、ライン等が引っかからないかよく観察し、あらかじめ点滴台やドレーンバッグなどを移動しておく必要がないか確認しましょう。



(事例2) 点滴中の患者さんが院内を歩行中、輸液ラインが廊下の手すりに引っかかり、抜けてしまった。

2 患者さんの行動に関する注意点

- 患者さんの活動度や行動範囲をみながら、ラインの長さ等の調整を行うこと。

手すりなどへの
引っかかり！

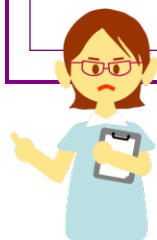
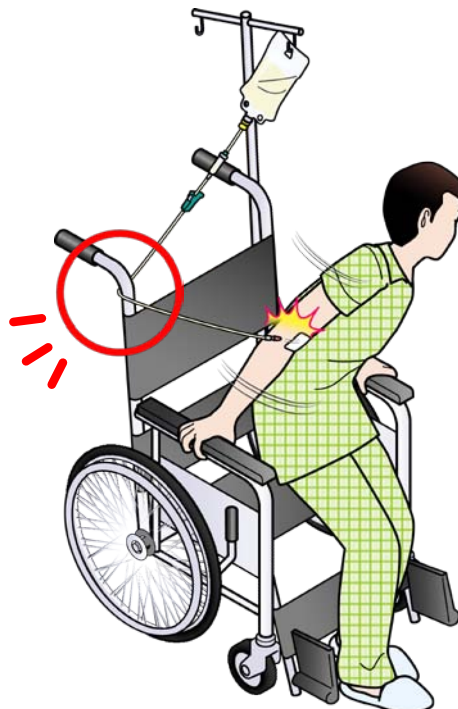
輸液ラインの
抜け！！

その他の抜去事例

ベッド柵への引っかかり



車いすへの引っかかり



院内の様々な場面で、ライン等の抜去事例が報告されています。それらの中には、**認知症の患者さんに関する事例が多く含まれています。**

本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び薬事法に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。